

被服学

繊維博物館の導入による感想・考察

～2006年度と2007年度の授業評価の比較～

家政教育講座 田邊勝利

綿：

* 高校の時に少しだけ繊維について学びましたが、綿についてこんなに詳しく知ることができたのがうれしかったです。実際に綿花の咲いているのを見たことがなかったので、手にしてみることができてうれしかったです。

今治のタオル：

* タオルを織る技術はとてすごいのだとビデオを見て改めて思いました。最近色々な取り組みがあって、地場産業として頑張っているのは素晴らしいことだなと思いました。

* 今治はタオルが有名というのを愛媛に来たとき初めて知りました。もっと今治をアピールしていけばいいのと思いました。

* ビデオをみて、今治のタオルはとて品質がよいことを知りました。今治のタオルは値段が高いイメージがあったけれど、その分よいものをつくっていると思いました。

伊予かすり：

* 私は緋が何なのか知らなかったが、授業で、緋そのものが今の生活で消えてしまっているのが悲しく思えた。緋の彩りなどに興味が持てた。

* 伊予かすりの伝統の深さや時代の流れについていけない悲しさというのが伝わった。

* 伊予の緋は、今はもう廃れてしまっているかもしれないが、模様などはすごいと思う。私は幾何文様よりも絵画文様の方が好きです。もっと身近なもので普及したらいいと思う。

布マルチ：

* 植物が油脂などによって水をはじくように、綿も同様に水をはじく性質があることには驚いた。また、布マルチを使った稲の栽培も、今後より多くの農家で活用されるべきである。

* 綿は水を吸収するものだと思っていたので未精製の綿は水をはじくということにとて驚きました。その性質を使って、本来ゴミになるはずの綿クズが田植えに使えることはとて良いことだなと思いました。

* 布マルチによる新しい田植え法を始めて知りました。私の家は、田植えをしているので母さ

んに話してみたいです。

セルロースとデンプン：

* セルロースがデンプンと構造が違うだけでほとんど同じであることが分かった。これからはセルロースの利用方法を研究していくことが重要だと思った。

* 同じ物質（ブドウ糖）でできているセルロースとデンプンは構造的に違うことがわかった。

* セルロースもデンプンも普段の生活で何気なく利用しているが、同じブドウ糖からできていても全然違う性質を持っているということを改めて感じました。構造が違うだけで性質が違うのでとて驚きました。

* グルコースが α 、 β のほんの少しの化学構造の違いでデンプンやセルロースと、構造と性質がとて違ったものができるのには驚いた。

* 今までにレーヨン、キュプラという言葉聞いたことはあったが、木材から作られていることを始めて知った。セルロースはこれから将来とて大切な資源であることが分かった。

* 石油がなくなってきているので、もっと自然のものを利用することを考えなければならない。

毛：

フェルト：

* ピアノは、フェルトのおかげで強い音もやさしい音も出るということが分かった。

* 過去から伝えられてきた伝統的なフェルトを、様々なコツ用法を見つけていった人々はすごいと思う。

* フェルトを作るためには様々な工程があることが分かりました。モンゴルではフェルト作りはとて大切なものだと思います。* ピアノの弦をたたくためにフェルトが使われているピアノの音の出し方のしくみが良く分かった。

* 羊にも色々な種類があって、毛の感じも様々なのだと思いました。意外と弾力性があってびっくりしました。含気性についても綿との違いがよくわかって、羊毛は暖かいことが理解できました。

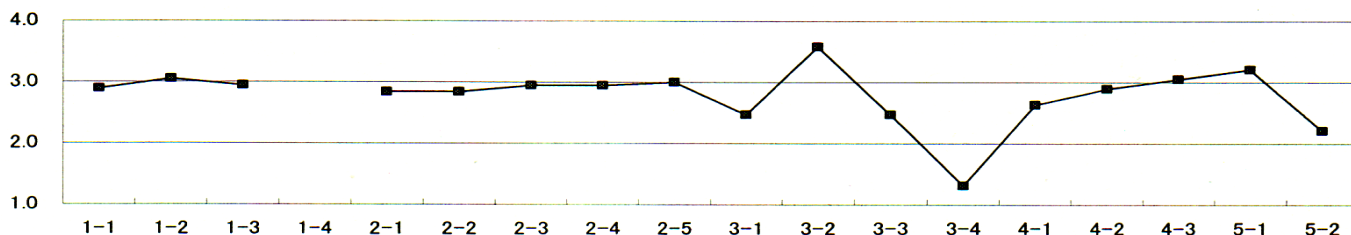
ユニバーシティ・ミュージアム（繊維博物館）構想の導入の効果：

- * ユニバーシティ・ミュージアム（繊維博物館）での布は見た目は絹みたいだけど実は綿 100%だということに驚きました。
- * ユニバーシティ・ミュージアムは難しいと思うけれど、人々により広く色々なことを知ってもらうには非常にいいことだと思う。
- * 繊維は普段服としていつも身につけているものだけど、実際に繊維自体に触れてみたり染料を見たりする機会はなかなか無いのでとても興味を沸きました。
- * ユニバーシティ・ミュージアムをたのしめました。
- * 蚕の中身が見れて楽しかった。大麻や真珠もあって興味深かった。
- * ユニバーシティ・ミュージアムの一例を見学することで、博物館が身近に感じることができ機会があれば色々な博物館を訪れてみたいと思っ

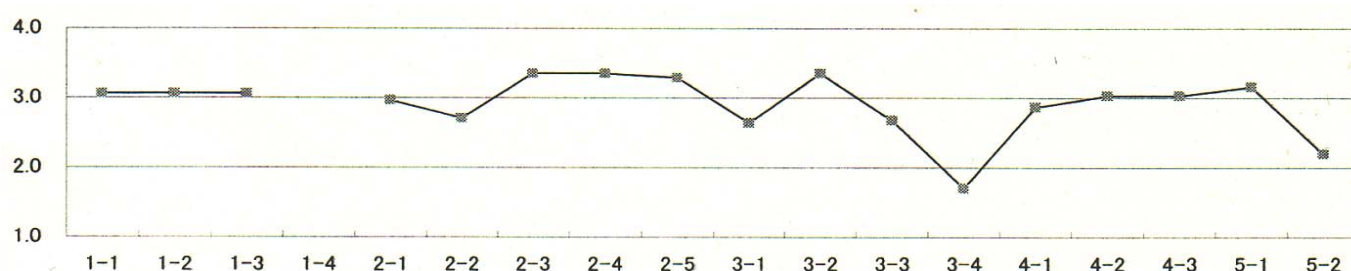
た。

- * ユニバーシティ・ミュージアムでは、とてもわかりやすく説明されていたり、触ったりできてよかった。シーアイランド・コットンの触り心地が好きです。
- * ユニバーシティ・ミュージアムでは様々な繊維に触れて、実際に感触などを確かめながら見学できて楽しく知識を深めることができたと思う。特に化学繊維に興味を持つことが出来た。
- * ユニバーシティ・ミュージアムの例に始めて参加させていただきました。初めて見る繊維も多く、楽しく拝見することができました。このような施設がより充実すれば、大学が身近に感じられるのではないかと思いました。
- * ユニバーシティ・ミュージアムでは、繊維についてくわしく知ることができてよかった。これからは大学生によるミュージアムを作っていくことによって、大学生の目線の授業も出てくるかもしれないと思う。

2006 年度の学生による授業評価（共通教育方式）



2006 年度の学生による授業評価（共通教育方式）



ユニバーシティ・ミュージアム（繊維博物館）の導入の試みによって 2007 年度の評価は 2006 年度評価より、視聴覚教材による教育効果が上がっていることが分かる。従来の授業でのフィードバック用紙には見られなかった考察や感想が表現されている。

繊維博物館は長期間をかけてメーカーや現地から収集・保存してきた繊維関連の文献・資料・試料・サンプルを学芸員の資格を目指している学生の目線でレイアウトを試みたものである。

今後、教育学部内に共通利用できるスペースが

確保されるので、このスペースを有効に活用して、教育効果を上げる工夫が必要になってくる。それによって従来の授業展開では出来なかったこと、あるいは不足していたことを補うことが出来る。ユニバーシティ・ミュージアムの導入は予想もできなかった教育効果が期待できるかもしれない。

受講生数は 40 人で、家政、教育学、教育心理、幼児教育、国語、保健体育、理科、美術専修・生活環境コースの学生と多様であった。